

■児童・生徒の学力の状況

○今年度の「全国学力・学習状況調査」では、二教科とも全国平均を下回り、個人差が非常に大きくなっている。国語科では、思考・判断・表現の領域の問題で、全国平均をわずかに上回るなど、改善の兆しが見られる。算数では、図形の領域で全国平均を上回った。計算など知識・理解の定着が不十分である。また、問題文の読み取りにも課題が見られる。  
 ○RSTにおいては、6項目中、5項目が平均を上回っている。しかし、基本となる係り受け解析は平均を割り、課題である。中央値を大きく下回る児童及び、中央値を少し下回る児童への指導の充実が課題である。  
 ○自ら問いを見だし、解決の見通しをもって資料を収集・選択し読み解いて主体的に追究していくことに課題が見られる。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題  
 ※「読み解く力」の育成を踏まえて

○児童が既習を生かしながらか見方・考え方を働かせ、自ら問いを見出すことのできる教材や学習活動、発問などの手だての工夫等に課題がある。  
 ○児童が自分たちの予想を基に学習計画を立てる場面を重視し、見通しと意欲をもって追究できるようにする手だてを講じてることが必要である。(既習事項や生活経験の想起・活用、適切なヒントの提示、対話的な活動の充実等)  
 ○児童が課題を意識し、教材や資料等を自ら読み解き、考えを構築していく指導の工夫について充実が必要である。(個別追究のと協働的な学びの充実、選択場面の設定、一人1台端末の活用)  
 ○児童の考えを広げ深めるための対話的な活動の充実、また、その基盤となる言語能力の育成が課題である。

■学校経営方針より(学力向上に関わる内容から)

★みんなで取り組む問題解決的な学習の充実、校内研究の推進「主体的に学びに向かう児童」、GIGAスクール  
 ◎「つかむ→見通しをもつ→調べ考える→まとめる(→いかす)」、みんなで解決する問題解決的な学習。  
 みんなが分かる・できる・参加する授業。個別最適な学びと協働的な学びの充実。  
 ・「板橋区授業スタンダード」を基盤とした単元を通じた問題解決 ・「つかむ→見通しをもつ→調べ考える→まとめる→いかす」  
 ・関心や問題意識を高める導入の工夫(教材開発、学習活動、地域・関係諸機関との連携)  
 ・見通しと振り返りの重視 ・子どもが選択して学習に取り組む場面の意図的な設定(課題、時間、方法、資料、活動等)  
 ・各教科・領域等の見方・考え方を働かせて考え、表現する教材や学習活動、指導・支援の工夫  
 ・言葉で表現し伝え合い深め合う活動の充実(対話的・協働的な学び) ・学びを生活や社会とつなぐ ・自己調整場面の設定  
 ○授業規律(聞き方・話し方も含む)の徹底 ○校内研究の推進  
 ◎一人一台端末の効果的かつ多様な活用(調べる、記録する、まとめる、伝え合う、習熟する、発信する、聞き取り、交流する等)  
 ◎STEAM教育の考え方を生かしたカリキュラム・マネジメントや探究的な学びの充実  
 ○小中一貫教育の推進…小中9年間の系統性、関連を図った指導、教科担任制の実施(第3学年以上)、中央図書館との連携

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
導入の工夫による児童の関心や問題意識の喚起とそれを踏まえた「めあて」の設定、教材や学習活動、教科の特質に応じた見方・考え方を働かせる資料や発問の工夫、見通しと振り返りの重視、既習事項を活用する場の意図的な設定、切実感や目的のある対話的な活動の充実、指導と評価の一体化等の手だてを講じる。	読み解く力の6つの視点を踏まえ、国語科において、主述の係り受けをはじめ基礎的な読解力を身に付け、各教科等で活用できるようにする。また、各教科等の目標や内容に応じて、指導する内容を明確にし、教科書を積極的に活用し、関連を図りながらその定着や伸長を図る。	総合的な学習の時間を核とし、地域や社会、実生活における人・もの・ことを題材とし、カリキュラム・マネジメントを図りながら探究的な学習を充実させ、自らの課題を見付け、解決する力を育成するとともに、協働的な学習等を通して学び方やものの考え方を身に付け、自己の生き方を考えることができるようにする。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
小中一貫教育の充実に向けて、保幼小接続小中一貫教育担当コーディネーターのリーダーシップのもと、学びのエリアのめざす子ども像や課題を共有し、「一教科一取組」及び「読み解く力」の育成について、学びのエリア3校で着実に実践していく。また、総合的な学習の時間を中心に板橋iカリキュラムなどを活用しながら、学びのエリア3校で学びを相互に交流し合い、環境教育やキャリア教育の充実を図る。	STEAM教育の考え方を基に、生活科や総合的な学習の時間を核にしてカリキュラム・マネジメントの充実を図る。その中で、地域の素材や人材の教材化、中央図書館をはじめとする関係機関等の連携を通し、各教科における学びを積極的かつ総合的に活用したり、学びを実生活や実社会の改善や向上に生かしたりして、子供主体の探究的な学習を展開できるようにする。そして、自らの課題を見付け、解決する力を育成するとともに、協働的な学習等を通して学び方やものの考え方を身に付け、自己の生き方を考えることができるようにする。	一人1台端末の長所を積極的な生かした実践を積み重ね、それを共有し広げる。 ○個別最適な学びの充実に向けた活用 ・自己の課題やベースに応じた追究、思考、表現活動の充実(調べる、スライド等にまとめる、課題やまとめる方法の選択、個に応じた課題の提示、ドリル学習等) ・学びのプロセスの蓄積と振り返り(記録する、振り返る、修正・調整する) ○協働的な学びの充実に向けた活用 ・自己の学びや考えを伝え合う(プレゼン、データの交流等) ・対話を通して考えを深める(スライド、ジャムボード、共同編集・作成等) ○各教員の実践の共有、交流促進